

## 目的

乳児に加水分解乳の投与がアレルギーまたは自己免疫疾患のリスクを下げられるか。

## 方法

乳児栄養ガイドライン作成のために英国食物基準局によって依頼された一連のシステミックレビューとメタアナライシス

二人の著者がそれぞれ独自に抽出したデータを合意に基づいて選んだ論文を the Cochrane risk of bias tool を使用を含めた研究の質を評価した。

## データ元

2015.1946年1月より2015年4月間に検索された Medline, Embase, Web of Science, CENTRAL, and LILACS

## 論文を選択する基準

加水分解乳とアレルギーまたは自己免疫疾患またはアレルギー感作が報告されている他の加水分解乳、母乳、一般の人工乳と前視的研究を比較した。

## 結果

37 の加水分解乳の研究が選択された。これら論文の患者合計は 19,000 人であった。

利益相反とアレルギーの結果についての大部分の研究における高度なまたは不明確なバイアス（偏り）と湿疹と喘鳴の研究に対する出版バイアス（否定的な結果が出た研究は、肯定的な結果が出た研究に比べて公表されにくいというバイア

ス（偏り）（weblio より引用）があった。

総合的にはあらかじめハイリスクのある乳児において、部分的または高度に加水分解されたミルクがアレルギーまたは自己免疫疾患のリスクを下げるという証拠はなかった。

一般のミルクと比較して 0-4 歳での湿疹リスクのオッズ比は部分加水分解乳では 0.84 (95% confidence interval 0.67 to 1.07; I(2)=30%)、高加水分解乳に対しては 0.55 (0.28 to 1.09; I(2)=74%)、高加水分解ホエイ乳 1.12 (0.88 to 1.42; I(2)=0%) であった。

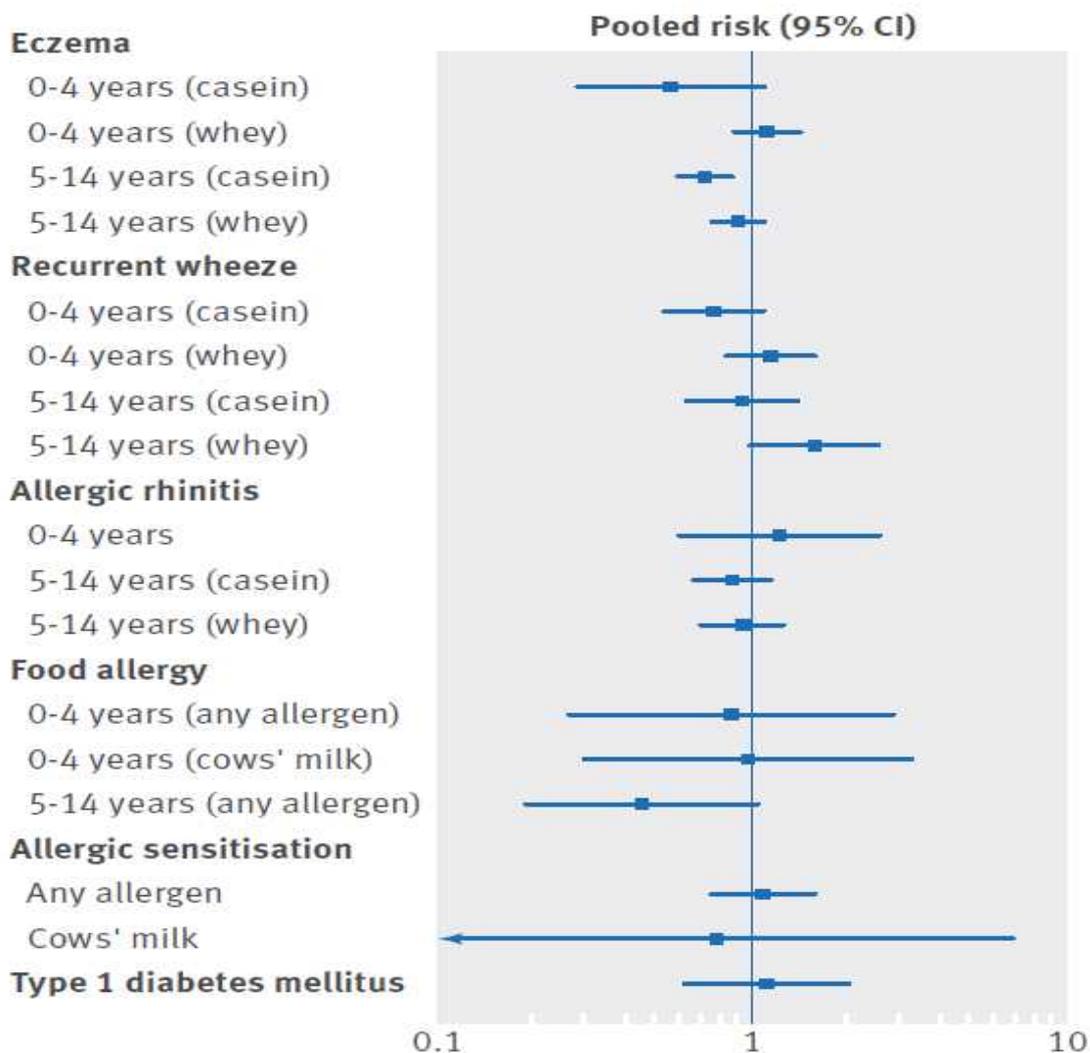
米国食品医薬品局（FDA）によって認められた保険収載を指示する証拠はなく、the Cochrane review では加水分解乳が牛乳アレルギーを抑制するとは言えない。

## 結論

これらの所見からはハイリスク乳児においてアレルギー疾患を予防するために加水分解乳の使用を勧めている現在のガイドラインを支持できない。

# 乳児アレルギー、加水分解乳（低アレルギー乳）で減らず

Boyle RJ, et al. Hydrolysed formula and risk of allergic or autoimmune disease: systematic review and meta-analysis. BMJ. 2016 Mar 8;352:i974



日本では今でも産科で加水分解乳が勧められている場合がありますが、効果・コストを考えれば必要ないということです。